

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 橿原市立白檀北小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒634-0051

奈良県橿原市白檀町3丁目10-2

E-mail sirakita@mahoroba.ne.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 96名 女子 89名 合計 185名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自ら切り拓いていく力をもつ、人間性豊かで、たくましい児童の育成」を学校目標として、ESDを校区の豊かな歴史的遺産と自然環境の中で、住みよい地域づくりをめざす環境教育と捉え、ESDの実践を通して、地域の素晴らしさを認識するとともに、郷土を愛する心をもち、人との関わりを大切にしたい住みよい地域づくりをめざす教育を推進した。

具体的には、人権教育、環境教育、校区の歴史遺産教育を柱に、①環境に係わる活動、②生物多様性に係わる教育、③地域に係わる学習、④人権・平和に係わる学習を行った。

①環境に係わる活動

4年生では「私たちの使う水について調べよう」をテーマに取り組んだ。市や県の河川課・上下水道課の出前授業を受けた。残した牛乳やお風呂の残り湯などが川を汚していることやそれをきれいにするために多くのきれいな水があることを知った。学校近くの下水道のマンホールのふたを開けてもらい、実際に下水が流れていくのを見学した。また、身近な高取川の水中生物や周りに住む昆虫について知り、環境と生物が大変深い関係にあることを学んだ。そして、自分達が使

う水はいったいどこからきているのかを調べることにした。

川上村にある「森と水の源流館」と「大滝ダムステーション」に行き、見学を通して森と水の関係性やダムの役割について知った。自分たちが使う水がきれいな森林で生まれ、私たちの使う水になることや、大滝ダムが治水や利水・発電・防災としての大きな役割を果たしていることを学んだ。学習後、総合的な学習の時間に森と水の源流館や大滝ダム・学べる防災ステーションで学んだことを新聞にまとめた。



②生物多様性に係わる教育

5年生では、「つながる自然 つながるいのち」をテーマに、1年間を通して学校にあるビオトープの観察や米作りの体験を通して、身近な環境から生物多様性について学習した。在来種であるミナミメダカについて榎原市昆虫館の方に来ていただき話を聞き、ビオトープの水を抜いて生き物の種類を調べた。自分たちの身の回りの自然でも、簡単に外来種が繁殖し、生物多様性が失われてきつつあることを学ぶことができた。学習を通して学んだことを、ESD コンソーシアム発表会で他校の児童と交流しあうことができた。また、自分たちが積極的に環境を守っていかねばならないという思いをもつことができた。



③地域に係わる学習

2年生では「もっとしりたいな 町のこと」をテーマに、春と秋の町探検を計画し、実際に地域を歩いた。白檀町は、白檀会館やAコープ、井上書店などお店やマンションなどの住宅が多いこと、鳥屋町は田や畑が多いこと、南妙法寺町は住宅や山があることなどに気づくことができた。

2学期には、給食センターへ見学に行き、調理場を外から見たり、働いている人に話を聞いたりして、自分たちが普段食べている給食がどのように作られているかやどんな思いで作っていただいているかを学ぶことができた。

学習のまとめとして、12月には「わくわくタウンフェスタ」を開き、普段お世話になっている地域の方に、町探検をして分かったことを報告したり、一緒に遊んだりして交流を深め、感謝の気持ちを伝えることができた。

3年生では「調べよう 私たちの住むまち」をテーマに取り組んだ。1学期に社会科で、「地図記号」や「地図の見方」の学習を行った。自分たちの町には、どこにどんな施設があるのか、私たちの町の土地の使われ方の特徴は何かなど、町

探検を通して、地図にまとめる活動を行った。自分たちの町には、東西南北で、それぞれ土地の使われ方が異なっているなど、自分たちの作った地図やそこに描いた地図記号を見ながら考えることができた。

2学期には、「私たちの住む橿原市」「働く人の仕事」を学習した。市役所を見学し市役所の仕事を調べたり、地域のスーパーマーケットや市内の工場を見学したりして、私たちの住む橿原市で働く人の仕事や、その工夫について学んだことをポスターや新聞にまとめて2年生に発表した。児童にとって身近な、地域の様子や仕事について詳しく学ぶことができた。



④人権・平和に係わる学習

1年生では、「いのちの授業」をテーマに、身の回りの動物から、自分たちといのちがどのように結びついているのかについて学習した。宇陀アニマルパークの出前授業を合計三回受けた。第一回では身近に、ペット以外の野生動物や牧場などで育てられている動物がいることを知った。ペットからは楽しい気持ちをもらい、家畜からは健康をいただき、野生動物は豊かな自然に直結しており、私達と動物はつながっていることを学んだ。

第二回では、自分自身の心臓の音を聞いたり、動物の気持ちを考えたりした。心臓の音をきくことで、生きていることを実感していた。また、自分達と同様に動物にも気持ちがあることを改めて学ぶ機会にもなった。

第三回では、宇陀アニマルパークに行き、家畜とふれあうことで、いつも飲んでいる牛乳がどこからきているのかを経験しながらいのちの大切さを学んだ。また動物たちが幸せにくらすためにどんなことができるのかを考え発表し合った。そこで、人間は動物のいのちに対して責任があることを学んだ。学習後、手紙を書くことを通して、命の授業の振り返りをし、まとめた。

6年生では、「平和について考えよう」をテーマに、修学旅行に向けて平和学習を行った。最初に広島への原爆投下について調べ学習をし、原爆の被害やその後の後遺症、原爆が投下された理由等について学習した。また、本校の読み聞かせボランティアの方に被爆体験者がおられ、その方に講話をしていただいた。

修学旅行に行った広島では、平和記念資料館の見学や、平和記念公園でのフィールドワーク、その中でのインタビューなど、精力的に活動を行い、現地の被爆体験者の方に講話をしていただいた。

修学旅行後には、今まで学習したことを修学旅行報告会で発表するために、まとめをすることになった。子どもたちは、原爆の恐ろしさや平和の大切さ、そして、平和を維持することの難しさを低学年の子にも分かりやすいよう工夫してまとめ、発表した。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「校区の豊かな歴史的遺産と自然環境の中で、住みよい地域づくりをめざす環境教育」を研究テーマに定め、年度初めに、各学年、教科・領域ごとに、児童に付けたい力を達成するための最善の活動を設定し、主に「生活科」や「総合的な学習の時間」のねらいとも重ねて、学年ごとに継続して取り組むことができるように年間活動計画を作成した。

活動を行う際は、児童が主体的に課題を見つけ、協働して解決する活動となるように共通理解のもと指導を行った。

学期ごとに、行った活動を振り返り、職員間で指導内容や指導方法、成果と課題などを共有している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に「ユネスコスクール活動」の研究テーマを職員の共通理解のもとに設定している。

研究テーマに基づき、担当学年ごとに、児童に付ける力に最もふさわしい活動を各教科・領域ごとに設定し、年間活動計画を作成した。

学期ごとに、行った活動について、職員間で成果と課題を交流している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

2学期末に児童・教職員・保護者に学校教育に関する評価アンケートをとり、よりよい教育活動にするため評価内容を検討し、今後の教育活動につなげている。今年度は授業で主体的に活動できたと答えた児童が増えたことから、体験的な活動を多く取り入れたことで、コミュニケーション力や自ら考える力を高めることができたと考える。また、児童アンケートや保護者アンケートの、人権を大切に、いじめのない仲間づくりに取り組んでいるという項目が高評価となり、ユネスコスクール活動の柱の一つである人権・平和の取組の成果がみられたと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

白檀文化祭に、ビオトープや環境教育活動に関する壁新聞を出展し、地域に伝えることができた。ESD コンソーシアムでの発表や、学校新聞を通して地域への周知活動も行った。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

5年生では、檀原市昆虫館からビオトープへのかかわり方について助言してもらい、出前授業も複数回していただいた。1月27日にはESDコンソーシアムに参加し、活動内容を発表することができた。

他の学年でも、活動テーマに合わせた施設への見学や出前授業を行い、学習内容を深めることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールみんなの掲示板で呼びかけられていた、「折り鶴プロジェクトへの協力」に全校生徒で取り組み、他のユネスコスクール加盟校と協力し活動することができた。

1月27日のESDコンソーシアムにおいての発表を通して、他のユネスコスクールと取組の様子を交流することができた。本校としても、他校の取組を目にし、今後の取組を計画するにあたり、大いに刺激を受けた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

日頃、お世話になっている地域の方々を招待し、感謝を伝える場を設けた。子どもたちは地域の色々な人に支えられて生活していることを知り、感謝の気持ちを持つことができた。また、地域のつながりをさらに深めることができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールとして、知識や思考力、問題解決能力にとどまらず、世界的な視点で地域の大人や同世代に向けた発信することを重視し、児童自らが学び、実践することで ESD の学習を進め展開していく教育活動を推進する。

そこで、児童につけたい資質能力を「主体的に学ぶ意欲」「自ら考え、表現する力」「実践する力」とし、ねらいに迫る活動に取り組む。具体的には、人との関わりや自然との触れ合いを重視した体験活動を充実させる。そして、地域の専門機関と連携し、地域人材を活用しながら学びを深めていく。さらに、学んだことを他者に伝えることの喜びを味わわせたい。

低学年では地域の人々と触れ合う中で、自分たちの住む地域の良さ、便利さに、体験や地域の人々との交流を通じて気づかせる。中学年では、自分たちの住む地域と他の地域の特色を比較し、課題を見つけ、他校や、公共施設の見学などの学び合いを通じて解決する方法を考える。高学年では、さらに、世界にも目を向け、平和について世界に生きる日本人としてどのようなことができるのかについて考えを深めさせたい。そして、自ら考え学んだことを地域に発信する力を育てたい。